

産業構造審議会 製造産業分科会 車両競技小委員会（第18回）
議事要旨

1. 日時

令和5年5月24日（水曜日）15時00分～17時00分

2. 場所

経済産業省本館17階第1特別会議室及びオンライン開催

3. 出席者

三屋委員長、絹代委員、根岸委員、古野委員、松田委員、山本委員
岩城オブザーバー、奥野オブザーバー、笹部オブザーバー、安田オブザーバー

4. 議題

- (1) 競輪・オートレース業界の現状
- (2) 競輪中期基本方針の進捗状況
- (3) オートレース中期基本方針の進捗状況

5. 議事概要

- 議事に先立ち、事務局から、会議及び配付資料公開とすることを説明。
- その後、三屋委員長により、議題に沿って進行。
- 事務局、(公財)JKA、(公社)全国競輪施行者協議会、全国小型自動車競走施行者協議会から説明があった後、委員から意見が述べられた。主な意見と質疑応答は以下のとおり。

○→委員 ●→オブザーバーまたは事務局

インターネット売上の分析

- インターネット販売が伸びているが、新規の顧客はどれだけいるのか。また、既存の顧客であっても、一人当たりの購入金額、購入回数等を分析すれば、まだ伸びる余地があるのではないか。
- インターネット売上の分析が不足しており、性別、年代、一日当たりの購入額などのデータしかない。今後は、賭式別、時間帯別、曜日別等の詳細な情報を民間ポータルサイトから頂戴して分析を進めたい。

従業員の働きやすさ

- 事業に関わっている人の労働時間、どのような形で採用・退職しているのかなど、顧客側だけでなく、働いている側のデータも取り、働きやすい環境を作ることにもSDGsに繋がる。この業界で働きたいと思う人が集まることが重要。
- ミッドナイトが最近では増えているが、現場の職員として残業手当が不要という理由で管理職がずっと張り付いているという話も聞くと改善が必要だと考える。

営業活動収支

- 売上だけでなく、営業活動収支も他の公営競技を上回る伸びであるが、どのように捉えているか。
- コロナ禍による無観客開催、経費が抑えられるモーニング・ミッドナイトの増加の影響と思われる。

施設への再投資

- 施設への再投資については、来場者が増えない中で悩ましいと思うが、施行者は現状をどのように受け止めているのか。今後の在り方について、施行者間における情報共有は行っているのか。
- 2023年1月の調査では、場単位で1億円以上の大規模な施設の改修を予定している場は13。施設への再投資に備える基金は、令和元年度は78億円、令和3年度は171億円と増えている。施行者間の情報共有については、全国団体である全輪協が中心になり各施行者とも協議しながら取り組んでいる。

コンテンツとしての魅力向上等

- 選手やレースの魅力をいかに高めていくかを考えないと、競輪が今後コンテンツとして生き残れない

のではないかと。競輪場を地域に解放していくことは賛成で、休日に時間を過ごす場所となることは非常に重要。ただし、競輪場と競艇場の実例を比較すると、競艇は感度が違うなど感じた。競輪の魅力を高めるために、これまでとは違う種類の方々の意見も取り入れていただきたい。

女子選手関連

○有力な選手をどうリクルートし、能力をどう伸ばしていくかを考える必要がある中で、ハード面のみでなくソフト面が追いついていないと考える。例えば、産休期間などを相談できる人が組織の中にいるのか。師弟関係など競輪には長い歴史があるが、女子選手の声を開ける環境を整備してモチベーションを保ってもらうことが、むしろ先端トレーニングよりも重要だと考えている。

●出産については、妊娠が明らかになってから出産を経てレースに復帰するまで一定の休暇制度を設けるとともに、代謝制度の対象としない制度を導入し、身分保障を行っている。他方、その間の収入源については構築できていないため、競輪の売上動向・収益動向を見ながらとなるが、選手共済会において制度を構築できればと考えている。

●女子選手のための相談窓口を設けており、ガールズ担当として OG 職員を採用し、そこから適宜必要な窓口を紹介するなどしている。

C02 対策等

○C02 対策に取り組んでいるのであればアピールすべき。取り組んでいないのであれば、場ごとに電力使用料を計算して、今や主流となっているグリーン電力証書を通じたカーボンオフセットに取り組むべき。今後はSDGsの取組を当然と捉える世代が増えてくる。

●競輪場における照明設備について、23場がハロゲンランプをLED照明に切り替え。前橋・松戸・川崎の3場は太陽光パネルを設置し、一部電力をまかなっている。北九州市では、SDGsの取組を意識した競輪収益の使い方をアピールして行っている。

●オートレースについては、ナイター照明のある4場のうち3場がLED。太陽光パネル設置はなく、グリーン電力証書もない。バイクの電動化については試作したものの、バッテリー価格が高く想定導入費用が高いためバッテリー価格の低下を待つとして断念。排ガス対策もインジェクション化に伴う開発に費用と期間がかかり断念。バイオ燃料は価格も高く安定供給に懸念があり先送り。合成燃料も同様。

動画によるマーケティング

○競輪関係の Youtube アカウントは他の公営競技に比べると、チャンネル登録者数がかなり少ない印象。動画によるマーケティングをどのように考えているのか。

●自由視点映像はレース中に最もスピードが出て選手同士が混戦するところが可視化されるため、新しい競輪ファンにとっても競輪がよりわかりやすくなることを期待している。

競輪選手養成所

○養成所には外出可能な日や携帯電話の使用制限があり今のライフスタイルに合わないように思うが、このようところが、選手となろうとする者の間口を狭くしているのではないかと。

●競輪選手は長ければ7日間は拘束され、携帯電話も使えない環境で過ごす。それを養成所での生活で身につけてもらうという意味合いもある。

多場併売

○コロナ禍で場外発売の売上が伸び悩む中、併売施設の在り方について施行者から話は出ているか。

●全国どの場でも大きなレースの車券を買えるように、最低4場併売できるよう取り組んでいる。

インバウンド

○インバウンドを取り込む計画はあるか。2025年までの予測において月別成長率が鈍化しているのであれば、ターゲット市場はより大きくあるべきと考える。

●全輪協、JKA、競輪選手会の共同出資で設立したジャパン・サイクル・インフィニティ（JCI）の取組の中で、国内在住の外国人を対象に、レース映像やオッズ映像に英語や中国語のテロップをつけたりといった取組を検討している。

製造産業局 車両室

電話：03-3501-1511